

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	食道扁平上皮癌の組織検体を用いたバイオマーカーの検討
	研究目的	食道癌に対しては免疫チェックポイントである PD-L1/PD-1 を治療標的とした抗 PD-1 阻害剤が標準治療として確立しています。しかし抗 PD-1 阻害剤のみでは治療効果が不十分であり、新たな免疫療法の治療開発が行われてきました。新たな免疫療法の治療ターゲットとして CD73、HLA-E、NKG2A が注目されており、これらを治療標的とした新規薬剤と PD-L1 阻害剤との併用療法の有効性が非小細胞肺癌で報告されています。食道癌において前述の CD73、HLA-E、NKG2A といった新たな治療標的の発現および予後との関連、これら治療標的と PD-L1 発現との相関は明らかになっていません。本研究では 2020 年 1 月～2022 年 6 月の期間で組織検体を用いて PD-L1 発現が評価された食道扁平上皮癌症例 120 例を対象とし、腫瘍組織内の CD73、HLA-E、NKG2A の発現、PD-L1 発現との相関、患者背景、予後との関連などを評価することを目的としました。
	研究対象者	2020 年 1 月～2022 年 6 月の期間で当センターにて組織検体を用いて PD-L1 発現が評価された食道扁平上皮癌症例 120 例を対象
	研究期間	西暦 2022 年 12 月 5 日～西暦 2025 年 12 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の管理について の責任者	当センター 研究責任者	消化器内科・消化管 古田光寛
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器内科・消化管、消化器外科、臨床研究所
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし
試料・情報の利用停止および 情報公開に関する窓口		神奈川県立がんセンター・消化器内科・消化管・古田光寛・045(520)2222